

**要注意!**

良かれと思つての関わりが  
逆効果になるとき



〇〇してあげないと!と思つていませんか?

- 「言つてあげないと」
- 「手伝つてあげないと」
- 「フォローしてあげない」

なぜなら、自分が経営者、上司だから。

こんな風に思つていたら、その会社、潰れます。

お気づきかと思いますが、  
「良かれと思つての関わりが、逆効果になるとき」  
が多々あります。

- ・つい口を出してしまう
- ・先回りして指示をしてしまう
- ・失敗させないように細かく伝えてしまう

日々の業務に追われる中で、  
本当は任せたい、育てたいと思つながらも  
目の前の状況に対応するために  
気づけば自分が手を動かしている――

そんな場面も少なくないのではないのでしょうか。  
しかし、その「良かれと思つての関わり」が  
思わぬ影響を生んでいるとしたら…?

気になる続きは裏面で…

## 今回のスタッフからのコメント

お  
題

### 好きな食べ物は?

アドベンチャーリンク  
事務局 高橋



私、うどん県の香川にほど近い愛媛県で生まれ育ちまして  
子どものころから「うどん」が大好きなんです。  
柔らかい麺よりも、コシは強ければ強いほどいい!  
現在住んでいる埼玉県も、うどんの名店が多いところで  
うどんとの縁は切っても切り離せないようですね♪

## 今回の「業界用語」

### 心理的安全性 (Psychological Safety)

チームの中で「こんなこと言つても大丈夫かな?」と  
不安にならず、安心して発言や挑戦ができる状態のことを  
指します。  
ミスを責められる環境では、人は発言しなくなり、挑戦も  
しなくなります。  
一方で、心理的安全性が高い組織では、意見やアイデアが  
自然と生まれ、結果としてチーム全体のパフォーマンスが  
高まります。

## INFORMATION

### 株式会社アドベンチャーリンク



アドベンチャーリンク  
Adventure Link

大阪府大阪市都島区片町1丁目5-13  
大手前センチュリービル4階 GOTOHERO内  
TEL : 080-6159-9408  
MAIL : info@adventure-link.com



HPはこちらの  
QRコードから

その背景には  
こんなことが起きているかもしれません。

人は「自分で考えて決めている」と  
感じられないとき  
本来の力を発揮しにくくなります。

どれだけ丁寧に教えていても  
正解を先に与えられる環境では、  
次第に「指示を待つ」状態になってしまうことも  
あります。

だからこそ大切なのは、  
すべてを教えるのではなく  
考える余白を残す関わり方です。

少し見守る、問いかける、任せてみる——

その積み重ねが、現場の変化につながっていきます。

関わり方をほんの少し変えるだけで、  
現場の動きは変わる可能性があります。

「良かれと思って」の一步先を、  
見直してみることがヒントになるかもしれません。



代表 Xとnote 頑張っています  
ぜひフォローをお願いいたします！



no+e



## 前田ゴマの 最近思ったこと

4月は新入社員と多く関わる機会がありました。  
その中で感じたのは、「とても素直」そして  
「とてもおとなしい」ということ。  
言われたことをしっかり受け取り、学ぼうとする。  
一方で、自分から一步踏み出すことは少ない。

これは世代の問題というより、これまでの学校教育の影響が  
大きいのではないかと感じています。

「個性を大事に」と言いながら、実際には異質なものは  
目立たないように調整される。  
世の中、平等でも公平でもないのに、「みんな一緒」という  
空気になる。

だからこそ今の社会人は、公平も、平等も、どちらも求める。  
でもその結果、違いを出さず、挑戦しない方が安全になる。

そして会社側は「挑戦してほしい」と言いながら、  
その挑戦を本気で受け止めきれていないことも多い。

だからこそ大事なものは、制度ではなく関係性。

「この人と働きたい」と思える環境でしか、人は動きません。  
関係づくりの力を、すべての会社に。

これからもこのテーマに向き合っていきます。

## 研修プログラムの紹介

### 心理分析プロフィール研修

「なぜ、この人はこう動くのか？」  
その理由を“感覚”ではなく“見える化”する研修です。

一人ひとりの考え方・感じ方・行動の傾向を分析し、  
自分と他者の違いを理解することで、関わり方が変わります。  
指示が伝わらない、部下が動かない、チームが噛み合わない—  
そんな悩みの多くは“性格や認識のズレ”から生まれています。

心理分析と体験型ワークを通じて、  
「伝わる・動ける・続く」関係性づくりを支援します。

成長への問いかけ

その一言、  
考える機会を奪っていませんか？

気づかないうちに、答えを先に伝えてしまっていることも。  
そしてその一言が、相手の「考える力」を止めてしまっ  
ているかもしれません。

少しだけ余白を残してみてください。  
“考える機会”が生まれることで、現場の動きは少しずつ  
変わっていきます。